



Subaru

昇
男声合唱団

ニュース№521 '15. 9. 5

合発曲2曲を徹底レッスンしました

9月4日

□ 9月4日(金)の定例レッスンは、奥村さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングに始まり、合発曲の「春を待つ」と「道」の2曲を、本並先生指揮、静さんピアノで、最終リハーサルのつもりで(合発のピアノは静さんをお願いしていますが、それまでに静さんと合わせるのは、今回が最終です)、徹底レッスンしました。参加は全30名でした。



□ 「春を待つ」はグリークラブ系の定番曲で聴衆の耳も肥えている。原曲はアカペラだが、我が昇は、昇初代ピアニストで名編曲家の土肥(旧姓)さんに素晴らしいピアノをつけてもらっている。いわば、「昇オリジナルの春を待つ」で、昇らしさを出し、耳の肥えた聴衆や審査員もうならせる演奏をどう実現するか、指揮者に集中して完成度の高い演奏を目指しましょう。

□ 因みに「春を待つ」は2002年日本のうたごえ福岡祭典コンクールで初出場の昇がいきなり1位を獲得し、「彗星の如く登場した」と評判になったときの曲です。爾来、コンサートのオープニング曲として好んでステージにあげて好評を博してきました。

□ かたや「道」も2004年日本のうたごえ沖縄祭典で1位を獲得し、爾来、亡くなった浅井さんの名ソロで、コンサートや公演でステージにあげ、昇の代表曲として聴衆を魅了してきました。

□ ただし、それから日本のうたごえの各合唱団のレベルも格段に上がり、入賞をねらうには、容易ならざる競争にさらされています。受賞空白の雌伏の数年の後、昨年のみやぎ祭典で銀賞に返り咲いたことに大いに意を強くして、今度の祭典も演奏力を努めて高めて臨まねばならないと思います。

□ 2曲を思い入れたっぷりにゆっくり目に演奏すると制限時間をオーバーしてしまうことがわかり、これからのレッスンは時間を計りながらオーバーしないようにリハーサルすることになります。

華僑「新年音楽会」の件で挨拶・交流に見えました。

□来年1月6日(水)に華僑「新年音楽会」が国際交流センターで開催され、昴はオープニング共演と昴ステージで公演を依頼されていますが、その件で、今日のレッスンに挨拶に見えました。

□挨拶に見えたのは、李凡さん(日中文化芸術交流協会会長・一級芸術家=中国国家資格)と兔成姫さん(日本名=愛甲さん、日中文化芸術専門学校長・国際交流センター長)で、当日共演予定の女性合唱団員10名とともに来訪されました。音楽を通じて心を通わせ合いましょうとの挨拶でした。



□「新年音楽会」のオープニングには、向こうでも親しまれている「北国の春」、「昴」、「我愛你」(ウオーアイニー)と「海よ故郷=ダーハイ」をコラボで歌いたいとのこと。本並先生指揮、李凡さんピアノで「海よ故郷」を突然の交流だったのですが、一緒に歌いました。

□オープニングの後、昴が時間をとって演奏しますが、日本から招かれているのは昴だけだとのこと。曲目などの詳細は追ってお知らせします。



山本力さんの ギャラリー

2012年3月にヒマラヤ、ネパール・ゴラパニトレッキングに参加した時の写真を送ります。

「山賊のギャロップ」を歌うたびに、トレッキング中に出会ったラバのキャラバン隊を思い出します。彼らは、生活物資運び屋ポーターたちで、決して山賊ではありませんが、神秘的なヒマラヤの山々・馬・むき出しの荷物・ポーターの髭ずらなどから、この歌の

イメージに合ったので送信します。ヒマラヤ観光国のネパールに今年4月M7.9の巨大地震が発生して、カトマンドからの情報によりますと、トレッキングルートやホテル・山小屋の崩壊、食糧難で観光客の受け入れがかなり困難な状況のようです。あのキャラバン隊の人達もどうなったやら?。被災したネパールの人々は世界からの援助を待っています。